

北海道浮魚ニュース

令和 6 (2024) 年度 2 号

2024 年 5 月 28 日

道総研 水産研究本部 函館水産試験場

【URL】 https://www.hro.or.jp/fisheries/research/kushiro/topics/ukiuo_news.html

◎日本海スルメイカ北上期調査結果

5 月 19 日～22 日の期間、津軽海峡周辺から秋田県沖にかけての日本海で、函館水産試験場調査船金星丸（151 トン、2 連式イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備）により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・ スルメイカの分布は非常に低密度で、全漁獲調査点の平均 CPUE は昨年および過去 5 年平均を下回った。
- ・ 体サイズは昨年と同程度、過去 5 年平均と比べてやや大きかった。

1. 水温分布（図 1）

漁獲調査 3 地点の表面水温は 13.4～14.3℃（昨年の同地点では 14.0～15.5℃）、深度 50m の水温は 11.0～11.7℃（昨年は 11.4～11.8℃）の範囲にありました。

スルメイカの分布の目安となる深度 50m で 10℃以上の水温帯は、北緯 40° 30' 線付近以南では広く分布していましたが、それ以北では東経 139° 50' 線付近から沿岸側に限られており、調査海域は昨年よりも低めの水温となっていました。

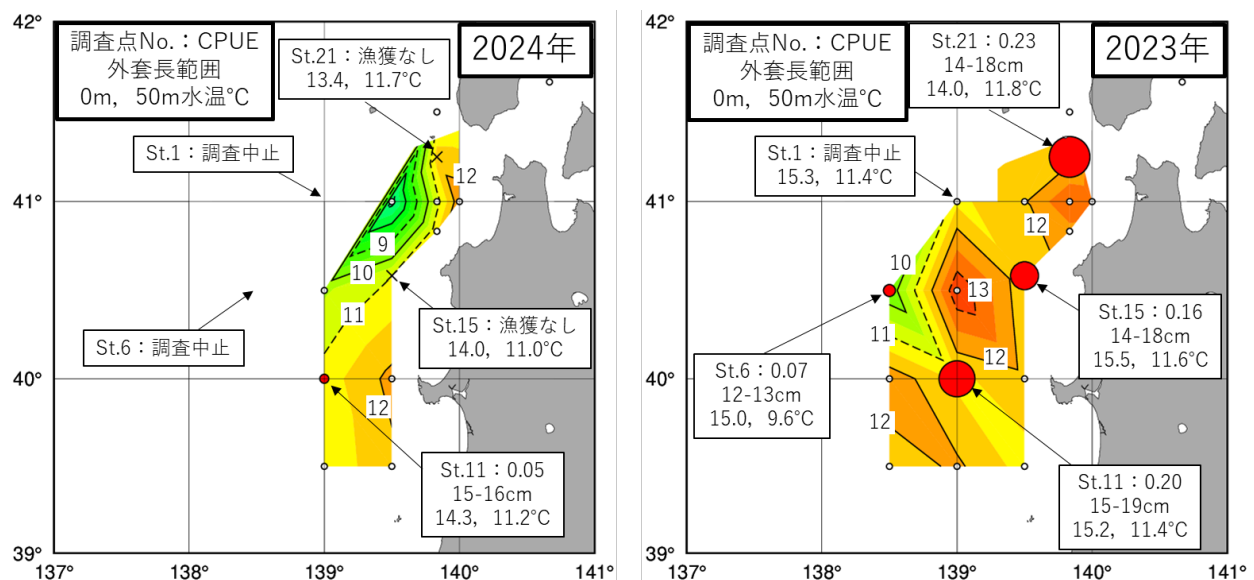


図1 スルメイカ漁獲調査結果と深度50mの等温線図（左：2024年、右：2023年）
矢印の先は漁獲調査点で●の大きさはCPUEに比例、×は漁獲なし
○は海洋観測のみの調査点

2. 流向流速分布（図 2）

航行中の ADCP 観測により得られた深度 50m における航路上の流向流速を図 2 に示します。対馬暖流は北緯 40° 30' 付近の沖合から沿岸へ向かい、沿岸を北上して津軽海峡方向および北方へ枝分かれして流れていました。

道総研では北海道周辺海域で、2 ヶ月ごとに 3 隻の調査船を用いて定期海洋観測を行い、海況速報を発信しています。以下の URL にて公開していますので、こちらもご参照下さい。

<https://www.hro.or.jp/fisheries/research/central/section/kankyousokuhou.html>

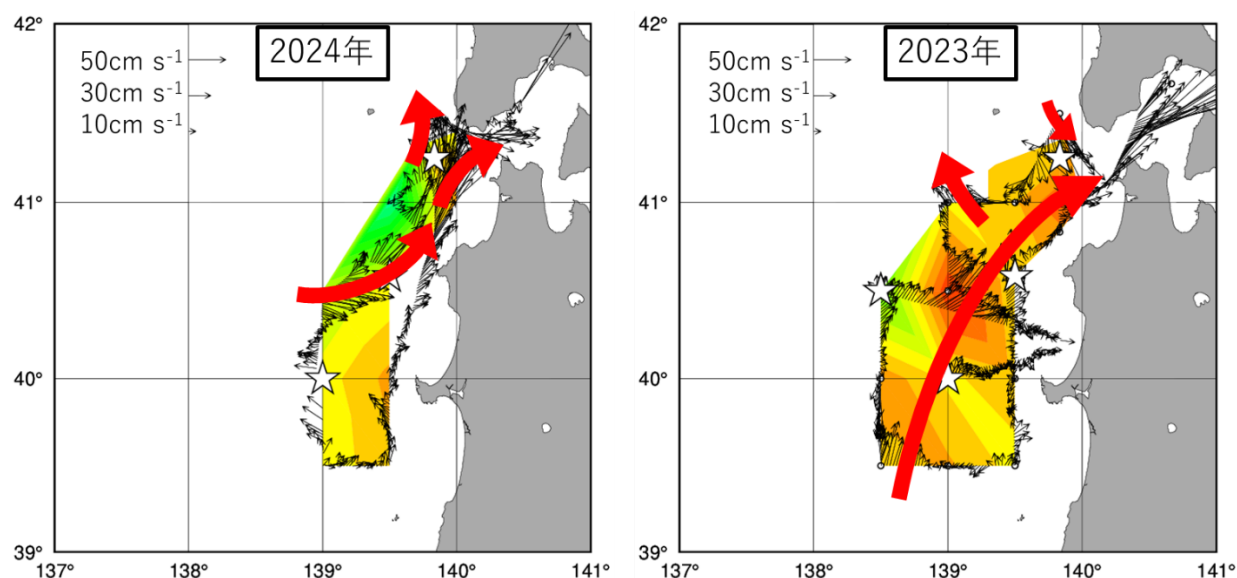


図 2 2024 年（左）と 2023 年（右）の深度 50m の流向流速と水温分布図

赤い矢印は対馬暖流と津軽暖流の模式図 ☆は漁獲調査点。

3. スルメイカ分布密度（図 1、図 3）

今回の調査では、2 地点（St. 1、St. 6）で漁獲調査を実施できませんでしたが、残り 3 地点で漁獲調査を実施しました。3 地点の CPUE（イカ釣機 1 台 1 時間当たり漁獲尾数）は 0～0.05（昨年 0.07～0.23）の範囲にありました。CPUE が最も高かったのは男鹿半島沖の St. 11 で CPUE は 0.05（昨年は 0.20）でした。残り 2 地点では船周辺で外套長 10cm 以下の小イカがわずかに見られましたが、漁獲はありませんでした。

漁獲調査を行った 3 地点の平均 CPUE は 0.02 で、昨年の 4 地点の平均（0.16）よりも低く、過去 5 年の平均（0.77）を大きく下回り、2001 年以降で最も低い値でした。

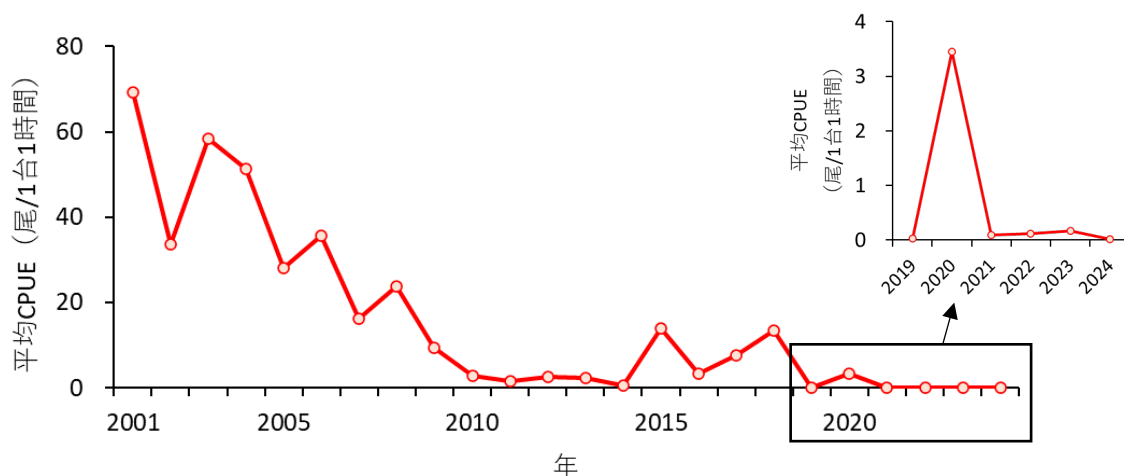


図 3 漁獲調査を実施した各地点の平均 CPUE の経年変化

4. スルメイカの大きさ (図 4)

今回の調査で漁獲されたスルメイカの外套長の範囲は 15～16cm (昨年 12～19cm) でした。今回漁獲されたのは 2 尾のみであるため単純な比較は出来ませんが、昨年と同程度、過去 5 年平均と比べてやや大型でした。

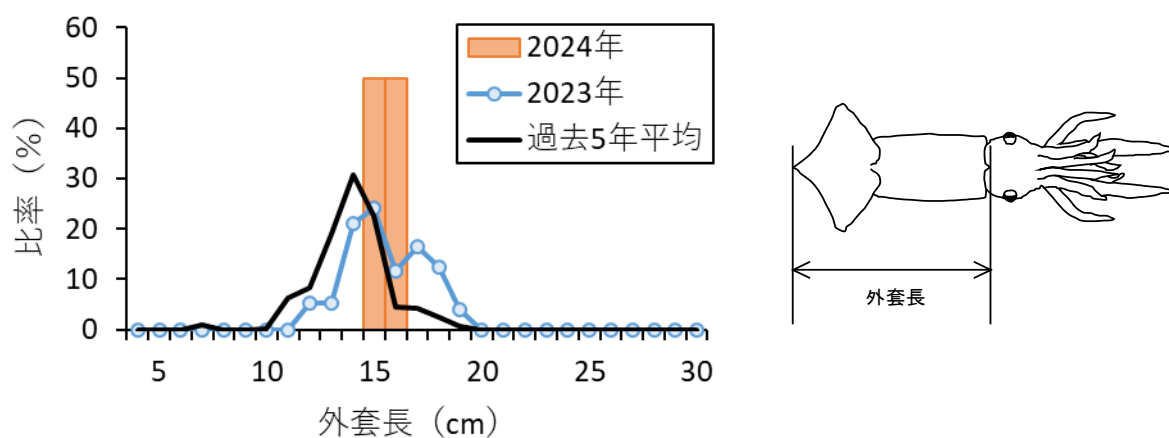


図 4 調査海域全体の外套長組成

※本調査の一部は水産資源調査・評価推進委託事業により実施しました。

(函館水産試験場 調査研究部、TEL : 0138-83-2893、FAX : 0138-83-2849)